

a 学校教育目標	郷土を愛し、 自らの役割を見つけ、 全力で伸びようとする児童の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)「知・徳・体」の基礎基本を身につけ、郷土の発展を願う児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)・児童の主體的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる学校 ・自己を愛し、健康でたくましく活動する児童を育成する学校 ・郷土のよさと課題を知り、その発展のために、地域を支え得る人材を育てる学校
----------	---	----------------------	---

評価計画					自己評価				改善方策	学校関係者評価					
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント	
					h 達成	h 達成					イ	ロ	ハ		
確かな学力の向上	児童の主體的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる学校	学ぶ楽しさを味わえる学校(児童の「～たい」を起点に、「～できた」「～なれた」の実現)	1 学習の動機付けを工夫し、ゴールイメージを明確に持たせる。 2 ゴール達成に向けた授業展開を図る。 3 学習後の振り返りを適宜行う。	・ゴールイメージを明確に持たせるよう、学習の動機付けを工夫した単元の割合 ・学習後「～できた」「～なれた」という意識を持てた回数割合(自己評価結果)	全単元の50%	68%	74%	100%	A	①②単元のためめとゴール達成時の自分の姿の共有化を継続することで、「～できた」「～なれた」と自分の成長を振り返ることができやすくなった。 ③前期に比べて肯定的評価が高くなっている。振り返りを通して、学習の見通しをもつことができ、自分について力を確認することにつながった。	◎見通しをもった単元計画と問題解決学習の取り組み(①②⑤) 児童の主體的な学習を支える授業展開を土台として来年度も見通しをもった単元計画と問題学習の取組を継続する。また、児童の学びは既習事項の積み重ねとなることを意識し、学習活動を計画展開していく。 ◎学習後の振り返り(③) 45分間を深まりのある学習にし「～できた」「～なれた」という姿に到達させため「読み」「書き」「計算」の基礎学力が必要。モジュールタイムや家庭学習を意図的、計画的に工夫して活用して定着を図る。 ◎「漢字検定」に向けた学習計画とシステム化(⑤) ・来年度も継続する方向で年間スケジュールにそって計画的に取り組む。 ・問題集やタブレットを活用するなどして児童が自主的に取り組めるようなシステム化	5			・適正に評価されている。 ・漢字検定の合格に向けて自主的に漢字学習に取り組むことができるようになったり、学習内容を振り返ったりする活動を通して、子どもたちは着実に力をつけていると感じた。 ・今後もタブレットを積極的に使用し、モバイル化に向けて試みのある学習を進めてもらいたい。
	既習事項を学習や生活に生かす学校	1 「漢検」受験に向けた漢字学習を展開する。 2 既習事項を踏まえた学習活動の設定を図る(国算理)。	・受験した級を合格した児童の割合 ・既習事項を踏まえて学習を行った授業の割合	80%	20%	78.6%	98.3%	B	④「漢検」の級を各自設定し、それに合わせた問題集に取り組ませることができた。漢字検定に向けて個々の取り組み方の差が大きい。全体的に筆順や「とめ」「はね」「はらい」等を意識して取り組む姿が増えた。 ⑤既習事項を踏まえた複式の学習スタイルの定着を図ってきた。前時までの学習との比較から気づいたことをもとに学習を進める授業形態が定着した学年もある。	5					
豊かな心と健やかな体の育成	自他を大切にしながら、切磋琢磨し合う学校風土の醸成	他者の良さを頑張り気づき、学び合う雰囲気形成(継続)	1 各自の得意なこと、上手なことを推薦し合い、「〇〇マイスター」として認定し、廊下へ掲示する。	・他者の頑張り気づき、推薦できる児童の割合 ・他者の頑張り気づき、自らの取組に生かした児童の割合	達成児童100%	47%	81.3%	81.3%	B	①他者の頑張り気づき、推薦できる児童の割合 ・各学級ごとに、週の中で時間を設定して他者の頑張りを見付ける活動に取り組んだ。児童総会では、他者の頑張りをもっと見つけようと呼び掛ける児童の姿が見られた。 ⇒他者の頑張りを見付ける活動に広がりが見られた○ ⇒他者の頑張り気づき、自らの取組に生かしている児童に対して、目標や達成状況を可視化する等の支援が十分ではなかった。▲	5			・適正に評価されている。 ・マイスター認定の取組が、子どもの自己肯定感を高めることにつながっていると感じた。 ・来校時に校内掲示を見るのをいつも楽しみにしている。今後も継続してほしい。	
	自身の立てた目標に向けて、努力を惜しまない児童の育成(継続)	1 もっと成長したいと思わせる場の設定を工夫する。 2 目標と取組状況を見える化し、努力を称賛する。	達成児童70%	33%	66.7%	95.2%	B	②各学級において各学期の目標設定と振り返りの実施 ・各学級ごとに、学習・生活・体力づくりなどの目標を立て、意識づけながら生活を送ることができた。○ ⇒ねらいに即した振り返り活動や、目標・取組状況の可視化が十分ではなかった。▲	5			・子ども自身が目標を立て、その達成を意識しながら努力を続けさせる取組が良い。			
信頼される学校	佐木島の学校として地域住民の心の拠り所となり、必要とされる存在となる	鷺浦小学校の存続を願い、支援して下さる地域住民を増やす	1 具体案(プラン)を作成する。 2 町内会長組織・PTAへの協力依頼とPR活動を行う。 3 申込書を作成・配布し、応募者(登録者)リストを作成する。	・「鷺浦小学校応援団(仮称)」登録世帯・事業所数	100軒以上	20%	100%	100%	A	①学校と地域住民とつながりを深める取組の推進 ・「鷺浦小学校応援団」の申込書を作成し、各組織等への協力依頼・PR活動等を実施。1月末時点で、252軒の登録をいただいた。登録世帯・事業所には、児童の似顔絵・メッセージ入りのポスターを配布し、喜びの声をいただいた。 ⇒学校と地域の目的や目標の共有◎	5			・「鷺浦小学校応援団」の取組を通して、学校とかわりを持つようとする住民も増えた。島全体で学校を応援している。 ・学校存続の願いが地域にさらに広がるよう、今後も学校や子どもの様子を積極的に発信してほしい。 ・先生方は効率的に業務を進めていると感じる。船便が不便になるが無理なく勤めてほしい。	
	教職員の勤務時間外在校時間の縮減(年間360時間以内)	1 緊急時を除き、勤務時間外の用務を設定しない。 2 勤務時間内に事務処理時間を確保する。 3 行事の精選・見直しを進める。 4 効率的な職務遂行を推進する。	・個別の勤務時間外在校時数の積算	月30時間×実施済月数以下100%	85.7%	85.7%	85.7%	B	②働き方に対する意識改革や理解の浸透 ・優先順位や目的を考えた業務の遂行 ・振り返り・フィードバックによる働き方の改善 ・保護者・地域住民の理解や協力 ⇒勤務時間外在校時間の縮減◎ 教員のタイムマネジメント能力の向上 ③業務のICT化の推進 ・会議のペーパーレス化、教材データ等の共有→業務の効率化	5					

【j:自己評価 評価】  
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100  
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】  
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。